

マイナスの事があるからプラスがある… 介護の経験があったから今の道があったと感謝。

伊豆高原へゆつゆつの里 福田 幹子様(68歳) 平成30年入居時一人入居

「元気なものが弱い人を見るのは当たり前」

22歳で結婚。まもなく重度障害の義姉の面倒を見ることになりました。最初の5、6年は少し動けたのに、その後は全介助の寝たきりに。自宅の別棟を改造して生活しやすくし、訪問看護師さんやヘルパーさんに来ていただきまし



施設のお掃除ボランティアのお仲間と(右から2人目が福田様)

た。でもリウマチの痛いところが分らず、慣れた私でないとお世話が難しかったです。自宅で最後を迎えるときには「死ぬのが怖い」という彼女に「傍にいるから」と最後まで寄り添うことができませんでした。安らかでした。17年間です。完全にやり切りました。その後、

今度は母が認知症になり、父が一人暮らしになりました。父の為に有料老人ホームを契約したのですが、結局父は「ホームは嫌だ」といつて、自宅で介護を受けながら最期を迎えました。

子供の世話の記憶がない

娘が3人います。義姉の介護期間中はタイムスケジュールを作り、仕事とこなしていた記憶はあるのに、子供たちの世話のことは記憶にないの。小学生の娘たちは学校から帰ったら習い事をさせて一日無事に終わればいいと思っていました。子供たちにはずいぶん我慢

をさせたなと思うが、それは決して悪い体験ではなかったと思います。すっかり現実を見て姉妹3人が覚悟して助けあつて暮らしたようです。

「お母さんを放し飼いにするには最適の場所ね」

老後の暮しを漠然と考え出したのは15年前の夫の急死から。娘にも介護の負担をかけたくないので、自立入居のこういうホームが良いなと思っていました。昔から自然豊かなところで最後は暮らしたいと思っていましたから、伊豆高原はぴったりでした。夫が亡くなってから「大好きなことをやって生きて欲しい」と言っていた通り、娘たちは全員が賛成してくれました。身元引受人は三女にしました。あの子だけが伯母の介護の姿を見ていません。上の姉たちのように、年をとるのはどういふことか学んで欲しいと思ったからです。

朝食を美味しく食べる会も始動!

入居してから変わったと意識するのは「安心がある」かなあ。安心だから好き勝手にやらせてもらっている感じ。日々変化する季節を感じることもできます。散歩中のワンちゃんたちの挨拶、鳥の声、どれも清々しいです。緑が多い施設故のことですが、昨秋は落ち葉が見過ぎせなくなり、「朝の落ち葉掃きをすれば、朝ご飯を美味しく食べられるのでは」と気の合う入居者の友人たちに提案。すぐに賛同してもらって、落ち葉を掃いたあとの焼き芋の楽しみまでできました。他にも「今のうちにやりたいこと、新しいことをやる」と決めて、算盤、書道、ボーリング、スポーツ吹矢、ジムなどに挑戦中です。間もなく次女の住むサンパウロにも出かける予定で。自宅を留守にする心配もなくなって、より一層、心が解き放たれて自由になりました。

